

6月定例会 市長より議会へ
行政報告



門脇槇夫市長

平成21年第3回定例会が6月17日に開会された。定例会初日には、議長・各特別委員会委員長の報告、また、門脇市長より各課関連の行政報告があった。行政報告から抜粋して掲載する。

**新型インフル
エンザの対応**

本市では、国内感染の確定を受け、五月十六日に市長を本部長とする「香美市新型インフルエンザ対策本部」を設置し、状況報告と県内発生した場合の対応策について協議し、現段階でできる対応を確認した。

ウイルスの解明や感染範囲の状況が変化する中、国レベルでは五月二十二日午前中に閣僚級で構成する会合で「基本的対処方針」が打ち込まれ、地域の実情に応じた柔軟な対応を行うこととされた。

本市では、防災対策課内に設置している対策本部事務局で情報収集や分析を行い、健康づくり推進課を中心に医療・予防部門の対応をしている。

現在までの感染防止活動は次のとおり。

- ① 広報で「新型インフルエンザについて」のチラシを全戸配布。
- ② 相談体制や予防法などをホームページに掲載。
- ③ 高知新聞に折り込みチラシを入れ啓発。
- ④ 消毒用アルコール液等、必要物品をできる限り購入し、防護服五十セットも発注した。

現在、夏に向かって感染速度は鈍ってきたものの、国内での感染は終息していない。世界保健機構は、六月二日に新型インフルエンザの感染状況が「世界的大流行」を意味する最高度のフェーズ6に接近しているとの見方を示している。

感染力が強く毒性が弱いという特徴を持った今回のウイルスだが、流行の波は一度ではなく、二度三度と来ることが予想されており、事前にできる準備を周到しておく必要がある。市民の方々に、あらゆる機会を活用して予防等の広報活動をしていく。

さらに、秋の終わりにから冬にかけて勢力を盛り返す可能性と、人から人への感染を繰り返すことでウイルスが変異し、爆発的に感染拡大する可能性も危惧されていることから、対策本部を維持し、秋以降を睨んで状況に応じた対応を取っていきたい。

行政連絡会

四月二十五日に市立中央公民館で平成二十一年度行政連絡会を開催した。

当日、百十五名（土佐山田町七十名、香北町二十七名、物部町十八名）の自治会長が出席し、市および議会から市政の報告、当初予算の説明、各課の報告

農政関係

工事関係については、農道、用水路工事等、六件を施工に向けて準備を進めている。村づくり交付金による泰山町用排水路は、交付決定後に発注の予定である。県営施工による船谷池改修工事も本体工事にかかる工事用道路に着手している。

また、農地・水・農村環境保全対策は、現在、四地区で行われており、新たな地区の取り組みも見られる。集落営農等支援事業において、一般タイプ、モデルタイプで各一地区、共同機械の利用や受託作業など集落による営農組合の形成が進められている。

新庁舎建設

昨年末に着手した第二北庁舎(旧フジヤ跡)の改修は、四月末に完成した。現在、第二北庁舎には、選挙管理委員会・保健室・総務課定額給付金係・電算係が配置されている。選挙の期日前投票も新庁舎が完成するまでは第二庁舎で行われることになる。

新庁舎の実施設計は原案が完成し、現在、構造設計について日本建築センター構造成能評価の審査を受けている。審査に合格すると、国土交通省の免震装置



第2北庁舎

に関する大臣認定を受けることができる。免震装置は新庁舎の骨格であり、慎重に作業を行っている。

また、南別館、西別館の事務所移転が完了したので、両建物の解体工事の準備を進めている。六月中に敷地内の電気切り回し工事を行い、八月末までには解体を終えたいと考えている。

また、電波障害等各種調査も並行して行っており、事前準備が整いつつある。順調にいけば今秋九月には新庁舎の入札ができる見込みである。

定額給付金

四月二十日に申請受付を開始し、六月五日現在までに対象者の約九五%が申請を終えた。未申請者には申請を促す文書を送付しているが、今後は未申請者への個別対応を進める。また、DV被害者対策についても独自に対応することとしている。

姉妹都市との交流

六月十二日から十五日にかけて、北海道積丹町との交流を行った。十二日は積丹町を訪問し、松井町長への表敬をはじめ、旧交を温めよう交流会などが催された。

翌十三日からは札幌で開催された第十八回YOSAKOIソーラ

ン祭りへ十五年連続合同チームとして出場した。また、六月二十八日に開催される「第四回積丹ソーラン味覚まつり」への参加準備も進められている。

再編された市営バス

かねてより再編に向けた取り組みを進めてきたが、本年四月一日より、運行を開始した。

再編された市営バス事業は、運賃体系の統一をはじめ、減便や土日祝日の運休、新規路線五路線での試験運行を開始した。試験運行については、期間を六ヶ月、一年間と設定しており、利用状況によつては試験運行を中止することも想定している。市民の皆様には、市営バスの積極的な活用を期待する。

魅力ある商店街

平成二十一年度魅力ある商店街づくり助成事業として、J R土佐山田駅構内での香美市インフォメーション施設整備が採択された。これは、財団法人地域活性化センターの一〇〇%の助成事業であり、来訪者に夢と希望がわくようなアンパンマンのキャラクターを随所に描いた施設の整備を実施する。

市内の児童・生徒数

市内の小学校は、現在九校で、児童数は千二百三十人であり、中学校は四校で、生徒数は六百三十五人である。児童生徒合わせると千八百六十五人になり、二十年度と比較すると三十二人の減少である。また、四月二十二日には教職員総会が開催され、二十一年度も順調なスタートを切った。



香美市インフォメーション施設・予定地